

暮らしに役立つ「税」の話

え！電動キックボードって課税されるの？

皆さん、電動キックボードという乗り物をご存じですか。環境問題や渋滞緩和対策として、またワークスペースでの移動手段として近年注目されている次世代マイクロモビリティの一つです。実際に観光地や街なかで見かけたり、試乗会で実際に体験したりした人もいないのではないでしょうか。

さて、この電動キックボード、これまでは原動機付自転車、いわゆる原付バイクと同じ扱いだったのですが、7月1日より基準を満たせば「特定小型原動機付自転車」として、16歳以上であれば運転免許なしで公道を運転できるようになりました。

ここでは、新しく分類された特定小型原動機付自転車（いわゆる電動キックボード）に関する税金について簡単にお話しします。



大人の
租
税
教
室

■特定小型原動機付自転車として登録できるのは？

次の基準を満たす電動キックボードなどです。どれか一つでも基準から外れると特定小型原動機付自転車にはならないので、注意してください。逆に、基準さえ満たせば、座れるものや三輪、四輪のものでも特定小型原動機付自転車として登録できるということです。

■車体の大きさ 長さ1.9mまで、幅0.6mまで

■車体の構造 モーターの定格出力が0.60kWまで、最高時速20kmまで

■税額はどれくらい？

取得した翌年度から、年間2000円の軽自動車税（種別割）が課税されます。

■標識を交付してもらうには？

課税課で標識を交付していますので、販売証明書などの書類をもって、課税課で手続きをしてください。詳しくは市ウェブサイト（課税課の軽自動車税（種別割）のページ）をご覧ください。



課税課（内線110）



知ってもらいたいお家の情報

地震に備えを ～家の耐震を考えよう～

■西日本は地震の活動期

南海トラフ地震は、おおむね100～150年間隔で繰り返し発生してきた大地震です。

前回の南海トラフ地震（昭和南海地震（1946年））から約80年が経過した現在では、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まっています。

地震の活動期に入ったといわれている今、いつ大地震が発生しても不思議ではありません。

■地震対策の必要性

昭和56年5月31日以前に建築された住宅は、古い耐震基準のため、震度6以上の大地震が発生した場合、倒壊する可能性が高いと言われています。

ただ危ないと言われても、具体的にどうすれば良いかわからない人は、地震対策の第一歩として、家の耐震性を調べる耐震診断から始めましょう。

■耐震診断ってどんなこと？

耐震診断とは、知識を有した建築士が、家の状態を調べて、地震に耐えられるかを確認することです。

現地調査では、屋根裏や床下に入り、普段見えない筋交いや雨漏り・蟻害などで傷んでいる木材の有無などを約2時間かけて確認します。

気になっている外壁のひびも、確認できる範囲で調査し、家の劣化状態と壁などの配置バランスから、耐震診断結果を報告書にまとめます。

まさに「家の健康診断」であり、診断結果から、耐震工事をする場合のおおむねの工事内容や費用などを知ることができます。



■補助金の活用

昭和56年以前に建築された木造住宅は、市から補助金が受けられるため、5000円程度（大きさ、築年数により増減あり）で耐震診断を受けることができます。

ご自身の健康診断を受けるように、まずは、気軽に耐震診断を受けてみてはどうでしょうか。

住宅政策課（内線438）

連載サロン

みんなで乗って守り育てよう



●富田林市内を運行する地域公共交通について

地域公共交通とは、地域住民の日常生活における移動などのために利用される鉄道や路線バス、タクシーなどをいいます。市内には、鉄道は近鉄長野線と南海高野線、路線バスは南海バス、近鉄バス、金剛バス、およびレインボーバス、タクシーは大阪第一交通と近鉄タクシーが運行しています。

●大阪第一交通のタクシーについて

市内を運行する地域公共交通のなかで、今回は大阪第一交通が運行するタクシーを紹介します。

大阪第一交通は、本市だけではなく、近隣市町村でも運行されているエリアがあります。また、乗車には、鉄道の駅前ロータリーで乗車する方法や、電話で配車する方法に加え、携帯アプリを使っての配車も可能です。運賃の支払いには、現金だけでなくクレジットカードや電子マネーなどの支払方法が利用できます。

大阪第一交通で勤務している人にお話を聞きました

運行でどのようなことに気を付けていますか？

お客様に安心して乗車いただくために、第一交通産業グループでは主に「乗務員の衛生管理」と「タクシー車内の環境」の2点において、新型コロナウイルス対策を実施しています。乗務員の衛生管理は、入社・退社時の検温の徹底やマスク着用およびうがい、消毒、手洗いを徹底しています。また、タクシー車内ではこまめな車内換気や消毒はもちろんのこと、ウイルスの不活性および除菌効果が期待できるオゾン発生装置を全車設置しています。これらの対策によってお客様をお迎えいたします。

利用者へのメッセージを

いつも第一交通をご利用いただきまして誠にありがとうございます。第一交通では安全・快適・迅速にサービスを提供するとともに、地域に密着した「総合生活産業」として、妊娠中や子育て中のお母さんを応援するママサポートタクシーや運転免許証を自主返納された高齢者を支援する65歳以上運転免許証返納割引などのサービスを提供しております。これからも地域により密着したサービスを提供し、タクシー事業を通じて市民の皆様に貢献していきたいと考えております。

道路交通課（内線416）

「あたり前」の社会に

昨年4月、奈良県の踏切で、視覚障がいのある女性が電車と接触し死亡するという事故が起きました。このような事故が二度と起こらないよう、踏切内に誘導の点字ブロックの設置が進められています。今年6月には視覚障がい者向けに、誘導点字ブロックの現地体験会が開かれました。参加者は、「一般の道路と踏切を区別することが難しかった」などの率直な意見を話されたそうです。奈良県では、今後も当事者からの意見を参考にしながら、設置箇所を増やす方向で計画を進めていくということでした。大阪府でも同様の取組みが始まっており、ぜひ、早急に日本全国で導入して欲しいと実感しました。

最近、このような視覚に障がいのある人が安心・安全に生活できるような新しい取組みについてのニュースが、たくさん取り上げられています。国土交通省は災害リスクを地図上に表示するハザードマップポータルサイトを刷新し、文章を音声で読み上げるソフトに対応させました。他にも、茨城県つくば市では、視覚障がいのある人がバスと電車の乗り換

えをスムーズにできるよう、スマートフォンの音声でバスターミナルから駅ホームまで誘導するアプリの実証検証が行われたそうです。

明
日
を
め
ざ
し
て

しかし一方で、視覚障がいのある人を対象にした全国団体によるアンケートによると、スマートフォンやパソコンなどデジタル機器の利用に関してのスキル面で困っていると回答した人は26.8%、やや困っているの41.6%と合わせて計68.4%の人が困難を感じているという結果が出たそうです。デジタル化が進む中、それらを使えるようにする支援のあり方が新たな課題になってくると思われました。

本市の小中学校では、アイマスク体験や盲導犬の訓練をしている人の話を聞くなど視覚障がいについての理解を深める学習を行っています。設備や制度を整えることは必要ですが、私たち一人一人が自分にできることは何かを知り、それを実行することも大切です。困ったときをお願いをしたり、何か困っていないかと声を掛けたりすることが、全ての人にとって「あたり前」になる社会をつくっていききたいものです。

教育指導室（内線364）